

臼田地区住民説明会において出された質問等に対する回答(一部)

再構築に係わる予算とスケジュールは？

- ・基幹医療センターは、土地取得費用を除き約160億円。全体で早くても約4年。
- ・地域医療センターは、50～60億円。基幹医療センター建設後、約7～8年。全体で10年計画。
(回答:病院)

小児科と産婦人科は、地域医療センターに残して欲しい！

- ・全国的な両科の医師不足は佐久の地でもある。基幹医療センターのできる4年後も非常に厳しいことが推測される。このため、人材を基幹医療センターに集約させ、小児・周産期の重症者を救える体制をとりたい。地域医療センターに小児科の専門医を常駐させることは難しいので、通常の診療は内科系医師で行う予定。いずれにしても、両科の医師の確保を進める中で地域医療センターでも診療が可能になるよう努力する。
(回答:病院)

基幹医療センターを臼田で、地域医療センターを中込で建設できないか？

- ・基幹医療センターは、東信全域の広域的な医療の充実を資すると考え、広域の患者さんや医療機関からの紹介や逆紹介に対し、交通の利便性や、様々な用件の中で模索した場所で、三者合意に基づき中込原での建設と考えた。
(回答:病院)

基幹医療センターが本院になってしまうのか？

- ・地域医療センターの機能は、一般病院としての機能に加えて、保健・医療・福祉を包括的に担い、附属施設(老人保健施設、農村保健研修センター、美里分院、看護専門学校)を統括する本院としての役割があり、そのように位置づけている。
(回答:病院)

佐久病院が分割されても、市と病院が協力して、臼田地域を医療・福祉のまちとして、寂れることがないようにまちづくりをして欲しい！

- ・今後、地域医療センターが完成することを新たなまちづくりの契機として、住民と話し合う場「**臼田まちづくり協議会(仮称)**」を設立し、様々な人と協働して臼田地区のまちづくりに取り組むことを計画している。
(回答:市)

今、全国的な医療危機が叫ばれている。これを機に行政や病院だけでなく、地域住民として語り合える機会をこれからも続けて欲しい！

- ・市と相談して行く中で検討していきます。
(回答:病院)
- ・「**臼田まちづくり協議会(仮称)**」のような住民参加型の話し合いの場をつくり、佐久病院にも参加してもらい、多くの住民に参加を呼びかけていく。
(回答:市)

地域医療センターでの人間ドッグを続けて欲しい！

- ・一泊二日ドッグは、地域医療センターで、日帰りドッグは、両センターで行う。
(回答:病院)

小児・周産期センター集約において、医師と子育て世代のお母さん方等との話し合える機会を作って欲しい！

- ・しっかり受け止め、機会をつくってまいりたいと考えている。
(回答:病院)

佐久総合病院は昭和19年の開設以来、臼田地区住民との関わりが深く、わが町の病院だということが抜けない！

- ・地元の皆様とは今後も、共存、共栄の気持ちは変わりません。地域医療センターは、佐久病院としての名称を掲げ、今以上に地域に根ざした医療を目指し、一般医療、リハビリ、1次～2次救急及び生活習慣病を対象とした診療を行います。また健康管理センター、健康増進センターを中心に保健予防活動に取り組み、福祉のまちづくりも協力していきたいと考える。
(回答:病院)

現在の外来患者のどのくらいの人数が、基幹医療センターでの診療となるのか？

- ・約3分の1程度見込んでおり、現在の1日の平均患者数が1,800名ですので、600名～700名程度を見込んでいます。
(回答:病院)

地域医療センターの地域とはどこを指すのか？

- ・特定の場所を指すものではないです。現実的に患者は、南佐久及び臼田地区周辺の方が中心になることを想定している。
(回答:病院)

住民説明会の結果をどのようにまとめ、臼田住民が納得したかどうかどのように判断し、次に進むのか？

- ・説明会を通して、佐久病院が住民に支えられて、愛されてきたことを改めて感じた。再構築計画は、地域医療においてなすべく責任を果すために必要であり、県・市の指導のもと進めることを理解いただきたい。
(回答:病院)
- ・今の医療を取り巻く環境や病院施設の老朽化等により、再構築の必要性は一定の理解をいただいたと考える。今後も住民の声を大切にするために、「**臼田まちづくり協議会(仮称)**」を通じて、多くの皆さんに理解と協力をいただき取り組んでいく。
(回答:市)